

# 予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：衛生費 項：環境管理費 目：環境管理推進費

## 事業名 「清流」環境保全推進事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

環境生活部 環境企画課 環境企画係 電話番号：058-272-1111 (内 2697)

E-mail: [c11265@pref.gifu.lg.jp](mailto:c11265@pref.gifu.lg.jp)

1 事業費 2,094千円 (前年度予算額：2,194千円)

### <財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	2,194	0	0	0	0	0	2,003	0	191
要求額	2,094	0	0	0	0	0	2,048	0	46
決定額									

## 2 要求内容

### (1) 要求の趣旨 (現状と課題)

- ・第6次岐阜県環境基本計画の基本方針として掲げる「未来につなぐ人づくりと環境にやさしいライフスタイル・ワークスタイルの変容」のため、県民の意識の醸成や保全活動の活性化を図る必要がある。
- ・特に、本県のアイデンティティである「清流」を守り、活かし、次世代に伝えていくため、森・川・海のつながりを踏まえた県民協働による環境保全の取り組みを推進していく必要がある。

### (2) 事業内容

#### ○ぎふ清流未来の会議

環境学習に取り組む本県と三重県の小学生、中学生、高校生が一堂に会し、日頃の学習の成果を発表する会議を開催。

[会場] 世界淡水魚園水族館 アクア・トトぎふ

#### ○県民による水環境の保全に向けた意識調査

- ・カワゲラウオッチング (主に小学生が行う水生生物調査)
- ・清流調査隊 (地域の水質汚濁の改善に取り組む団体を登録)
- ・感覚による河川調査 (清流調査隊等による河川の目視・におい調査)

○伊勢湾総合対策協議会

伊勢湾流域における海岸漂着物などの課題に取り組むための3県1市（岐阜県、愛知県、三重県、名古屋市）による協議会への参加

○河川環境の保全に向けた普及啓発

- ・「清流月間」の普及啓発（環境基本条例により7月を清流月間に制定）
  - ▶新聞広告、ポスター・ちらしによる啓発
  - ▶7月に県内で行われる環境保全活動を県ホームページで紹介
- ・大型イベントでのブース出展
  - ▶ぎふ清流ハーフマラソン、農業フェスティバル等にブースを出展し、環境保全を啓発
- ・長良川清掃プロジェクトの開催
- ・清流ミナモの未来づくり
  - ▶NPO等が取り組む環境保全活動を登録しウェブサイトでの紹介

(3) 県負担・補助率の考え方

全県にわたる環境保全の普及啓発を行うため、県負担が妥当

(4) 類似事業の有無 無

### 3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
人件費	42	未来の会議講師報償費
旅費	158	未来の会議講師費用弁償、職員の業務旅費等
需用費	437	事務消耗品購入、普及啓発資材
役務費	698	保険料、郵便料、電話料、「マナビのトビラ」広告料
使用料	739	バス借上げ等
その他	20	伊勢湾総合対策協議会研修会
合計	2,094	

### 決定額の考え方

### 4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- ・第6次岐阜県環境基本計画

基本理念：自然と人が共生する持続可能な「清流の国ぎふ」の実現

# 事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

## 1 事業の目標と成果

### （事業目標）

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか  
環境保全の普及啓発を継続的に行うことで、県民の自然環境への関心と意識を高め、県民による環境保全活動の活性化を図る。

### （目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業 開始前	指標の推移		現在値	目 標	達成率
		(H29)	(H30)	(前々年度末時点)		
清流調査隊の活動 実施流域数(単年 度)	- (H20)	16 流域 (H29)	16 流域 (H30)	16 流域 (R1)	19 流域 (R3)	84.2%

### （前年度の取組）

- ・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）
- ・ぎふ清流未来の会議の開催  
日時：令和元年 12 月 7 日 会場：河川環境楽園 アクア・トトぎふ  
参加：県内・三重県の小・中・高校 5 校から約 70 名
- ・カワゲラウォッチング (R1) 95 団体・5,524 人参加、110 地点を調査
- ・清流調査隊 (R1) 22 団体・1,265 人登録
- ・感覚による河川調査 (R1) 95 団体・5,508 人参加、157 地点を調査
- ・清流ミナモの未来づくり (R1) 35 事業を登録

### （前年度の成果）

- ・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果
- ・ぎふ清流未来の会議  
環境学習に取り組む生徒や児童が、日頃の活動成果を発表し合うことで、相互の理解を深めるとともに、流域環境の保全意識を高めることができた。
- ・カワゲラウォッチング・清流調査隊・感覚による河川調査  
多くの県民の参加があり、県内河川の水質保全や生活排水に対する意識の高揚が図られた。

## 2 事業の評価と課題

### (事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い      △：必要性が低い</li> </ul>	
(評価) ○	県内における環境保全の取り組みを広く普及啓発することにより、県民全体の環境保全の意識の醸成と活動の推進が図られるため、事業の必要性は高い。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない</li> </ul>	
(評価) ○	当事業における様々な取組みに多くの県民が参加しており、環境保全意識を深めることができている。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている      △：向上の余地がある</li> </ul>	
(評価) ○	市町村や関係団体、他部局と連携して実施することにより、効率的に広く普及啓発を行っている。

### (今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業が直面する課題や改善が必要な事項 環境を取り巻く状況は年々変化しているため、現状に合った啓発内容に見直すとともに、SNSの活用やワークショップ型の体験活動など県民の関心を一層高めるための啓発手法を取り入れる必要がある。</li> </ul>
--

### (次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 環境保全を推進するには、広く県民に対しその必要性を訴え続けていくことが必要である。そのため、事業の効果や効率を検証しつつ、引き続き県民による取組みなどを普及啓発していく。</li> </ul>
--

### (他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ぎふ清流ハーフマラソン【地域スポーツ課】</li> <li>・農業フェスティバル【農政課】</li> <li>・ぎふの木フェスタ【林政課】</li> </ul>
組み合わせて実施する理由や期待する効果 など	・子どもから大人に至るまで幅広い層の方が参加し、県民に広く環境保全や生物多様性についてより効果的にPRできるため